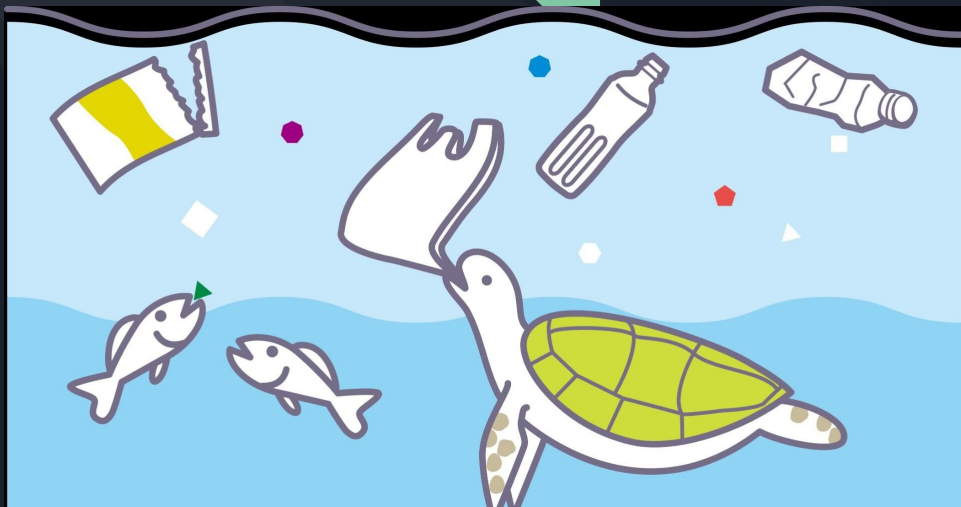


魚への影響



中央中学校 7年2組

魚への影響

マイクロプラスチックを誤って飲み込んでしまうと、喉につまらせたり、消化器官が傷つけられて、栄養失調になるなどの影響があります。

ゴミが魚に与える影響は、化学物質、油などが原因で、大量の魚ががしんだり、サイズが小さめだったり、産卵場所が確保できなくなり魚の量が減っていきます。



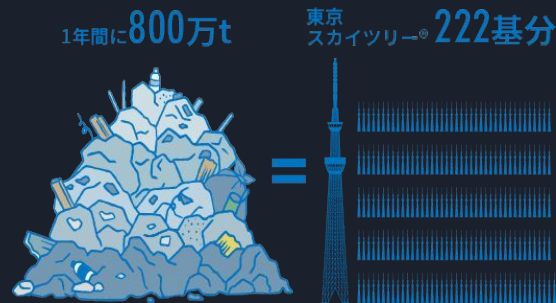


海にはどんなゴミがあるか？

2050年の海は魚よりもゴミが多くなる？

その理由として最も多いのが、釣り糸や食品の容器・包装袋など、プラスチック製のものです。一度使えばすぐに捨ててしまう、いわゆる「使い捨てプラスチック」のゴミが抜き出て多いのです。環境省の調べによると、世界では毎年少なくとも800万トンのプラスチックゴミが海に流出しています。

800万トンはおおよそ東京スカイツリー222基分です。



魚がいなくなることがあるか



地球温暖化や漁業による乱獲、化学物質やプラスチックによる海洋汚染などがこのまま進めば、残り30年もしないうちに、食卓に並ぶ魚介類はほとんどが絶滅してしまいます。

魚以外への影響

プラスチックゴミによる海洋汚染はとても深刻で、えさと間違えて食べることなどにより、毎年100万羽の海鳥、10万匹の海棲哺乳(かいせいほにゅう)類、ウミガメ、無数の魚が死んでいっています。



さいごに



このことから海や陸にゴミなどをポイ捨てしてしまうと魚の命や地球環境などに大きく影響しています。

なので皆さんはポイ捨てなどをやめて地球環境や魚などの命を守っていきましょう。

そしてゴミが落ちていたりしたら積極的にごみを拾いをしていきましょう。

